

【作文（小学生）の部】  
国土交通省表彰 事務次官賞

『どしゃくずれ』

薩摩川内市立長浜小学校 1年 森 遥臣

6がつ21にちは、おとうさんのたんじょうびでした。でも、せっかくのケーキもたべることは、できませんでした。

そのひ、ぼくが、がっこうからかえるとき、いえのすぐちかくのがけが、くずれていました。そこに、おねえちゃんといっしょにつくったちいさなひみつきちも、くずれていました。木やはっぱやいしが、ごろごろとこころがっていました。ぼくは、おもわずこわくなって、すぐいえのなかにはいりました。そして、おかあさんを見て、ほっとしました。おかあさんは、

「はるが、とおっているときに、くずれなくてよかった。」  
と、なんかいもいってくれました。

でも、そのあとも、あめがつよいしゃわあみだいに、じゃばじゃばとふっていたから、みんなでしょうがっこうにとまることになりました。ねるとき、マットのうえは、かたくていたくてびっくりしました。よるのしょうがっこうは、おうちよりくらかったので、こわくてすぐにはねむれませんでした。だから、あさおきたら、おとうさんにだっこしてもらって、おうちにかえって、またすぐにねました。

つぎのひから、しょうがっこうに行くときは、とおまわりになるほどうきょうを、わたることになりました。おとうさんが、

「また、くずれてくるかもしれないから、ひとりでおったら、だめだよ。」  
と、いってくれました。

それから、まいにち、くずれたところを「いやだな。」とおもいながらみました。「もう、くずれませんかように。」といのりながら。

いまは、どしゃくずれがあったところも、ひとりでおってもいいです。でも、もしまたたくさんあめがふったら、おとうさんとのやくそくを、ぼくは、かならずまもります。

「らいねんは、おとうさんのたんじょうかいが、できたらいいな。」